



Rotary Serving Humanity
2016~2017年度RIテーマ

例会場：ホテル プエナビスタ／例会時間：第1・2水曜日 19:00~20:00, 第3・4・5水曜日 12:30~13:30

「お城を見つめ直す」

点 鐘 12:30

司 会 S.A.A.プログラム 征矢クラブ管理委員

斉 唱 「それでこそロータリー」

会長あいさつ

西牧会長



先日、市民タイムスの記事に御嶽海の小結昇進の記事が載っていました。長野県出身力士としては1933年の高登が関脇になって以来84年ぶりの三役です。御嶽海の才能を見出し、小さな頃から力士として指導をした木曾相撲連盟の植原延夫さんがなくなり、悲しみも残っている時と思いますが、今週から始まる本場所でその悲しみを力に換え、何とか勝ち越して欲しいものです。

更に市民タイムスの同じページに松本城の記事が載っていました。松本城の呼び名としては鳥城が有名ですが、以前は鷺湖(がこ)城と呼ばれていたこともあるようです。10代城主 水野忠職が寛文3年の岡宮神社の新築に際して、寄進した棟札にこの呼び名が記されていたという記事です。鷺湖は中国の南宋時代に儒学者の朱熹と陸九淵が論争を交わした有名な場所であり、儒学を勉強していた武士にとってはよく知られた場所であったようです。鷺湖が何処にあるか調べてみました。現在の江西省上饒市鉛山県です。中国の制度では省があり、その中に市があり、更にその中を県、区などで分類しているようです。面白いことに上饒市の中を流れる川を信江といい、鉛山県のすぐ下流の地域を信州区となっています。隋の時代から信州と呼ばれていた地区は幾つかあるが、この地域が昔から信州と呼ばれていたかは不明です。日本では平安時代末期または鎌倉時代から都から派遣された僧を中心に信濃国を信州と呼ぶようになっていきます。また陸九淵のことを別名陸象山ともいいます。松代出身の佐久間象山の名はここから来たとも、または地下壕のある象山山からとったとも言われています。佐久間象山も儒学者であり、儒学者の間でこの鷺湖がよく知られた場所であったことを示唆しています。

このように後付けで強引な関連付けかもしれませんが、松本城と鷺湖の関係が見つかりひとりで感動しました。

幹事報告

藤田幹事

①第5回定例理事会報告。

*11・12・1月プログラム確認の件。(承認)

*その他。◇2018-19年度ガバナー補佐候補者選出の件。(今年度中に決定。決定は指名委員会。候補者は会長・地区役員経験者)◇松本東RCスピーチコンテスト御祝儀の件。◇事務局就業規則の件。(継続検討)

②「ダメ。ゼッタイ。」普及運動募金(薬物乱用防止)のお願い。

出席報告

中島クラブ管理副委員長

会員総数 22名(内出席規定適用免除欠席者2名)
本日の欠席者7名(他2名は事前メイキャップ済)
出席率 75%

前々回(10/26)修正欠席者4名 出席率 80.95%

ニコニコボックス報告 中島クラブ管理副委員長

コメント ◇トランプさんが勝ちましたね。そういえば「わんわん物語」の主人公はトランプでしたね。西牧君 ◇コートが必要な寒さです。藤田君 ◇車から降りてビックリ。寒くて、寒くて、襟巻を持ってくれば良かったな。井筒君 ◇寒いですね。風邪を引かないよう気をつけましょう。征矢君 ◇トランプが勝って、世界は、経済はどうなるのでしょうか。児野君 ◇トランプが勝って、日本は花札で勝つぞ。西川君 ◇トランプか!?! 花札で行くぞ!! 長か半か。塚本君 ◇トランプが勝ってしまいました。中国とロシアは喜んでいる事でしょう。でも日本は、世界はどうなってしまうのでしょうか? 心配で、心配で、心配です。中島君

なんとなく ◇櫻井君

配布資料：「幹事報告」「会報No.17」「Rの友11月号」
「会長あいさつ資料;松本城 別名は鷺粉城」

～ プログラム ～

《雑誌評論》「ロータリーの友11月号」

櫻井クラブ広報委員



数年前のこと、あるロータリークラブがアジアのある村に学校(教室)を建てる奉仕活動をしました。よいことをしたのです。

ところがその村はもともと大変貧しかったものですから、先生を雇うお金やらその後の維持費を捻出できません。そのため、そのRCでもどうするのが検討されたようですが、結果として支援は不可能となったようです。

継続的な奉仕活動はなかなか難しいことです。しかし支援活動で最も大切な事は、その後の長期的な調査、検証、支援です。

私がこのお話しをしているまさに今、一人のロータリアンが自費でその遠い外国の村を訪問しています。勿論必要なお金を携えて年に1度の、今回で何度目かの訪問をしているのです。本当によいことをしているのです。

善行は隠れたところでしなさい、と言われますが、ロータリーの友の活動報告を読みますと、RCの活動は比較的目立ちたがる向きがあるようです。でも彼は、友である私にさえ内緒で行動をしていたのです。私は、つい先日このことを知りました。実に頭の下がる思いをしました。彼は本当に隠れたところでよいことをしているのです。

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の曾孫 小泉凡氏の講演要旨が掲載されています。八百万の神がおわす多神教の国日本と、森羅万象に精霊が宿るアニミズムの国の精神性がどこかで共通しているのでしょうか。あらゆるものに恐れおののく畏怖、畏敬の念を持つ日本そして日本人にハーンは安らぎを見出したのだと思います。

前述した彼の奉仕活動は、まさしくこの日本らしい精神性によるものだと推察します。

ロータリーの友11月号から感じた儘を羅列しました。

《R情報》「ロータリーソング」

中島クラブ管理副委員長

例会にてロータリーソングを斉唱しています。当クラブでは第1例会「奉仕の理想」、第2例会「それでこそロータリー」、第3例会「我等の生業」、第4例会「手に手つないで」を歌っております。



ロータリーソングはなぜ歌うのでしょうか。クラブ定款にも、細則にもロータリーソングを歌えとは書いてありません。

歌うことを始めた人物は、1905年にロータリーが創立し、5番目に入会したハリイ・ラグルスでした。きっかけは、1907年、ロータリー誕生後2年目にポール・ハリスがシカゴRC第3代目の会長になった頃、ささいな意見の相違が次第に大きくなり、シカゴRC内が割れ、出席率も低下するという事態が起きました。親睦派と奉仕派との間に意見が対立し、時の親睦委員長の医師ウィリアム・ネフは「このままではクラブは崩壊する。君が毎週立ち上がり、楽しく歌ってこの危機を救ってくれ」と印刷屋のハリイ・ラグルスに懇願します。ラグルスは当時流行っていた歌を何曲か音頭を取って歌って以来、クラブの団欒は甦り、これが何年も続いて、例会での合唱はロータリーの伝統となりました。この習慣はアメリカの多くのクラブに波及し、今日では、オーストラリア、日本、ナイジェリア、ニュージーランド、カナダなどのさまざまな国のロータリー例会におけるポピュラーな親睦行事となっています。

国際協議会でも、毎朝、本会議が始まる前に各国で親しまれている歌を皆で歌います。歌い方も様々で、例会の始めに国歌を歌うクラブもあれば、童謡を必ず歌うところも見られます。しかし、ヨーロッパ、南米、アジアの例会で、ロータリーソングが歌われることはあまりないようです。

1920年10月20日東京RCが創立され、続いて大阪・神戸・名古屋・京都・横浜・京城・広島・大連・奉天・ハルピン・台北と設立され、1930年には11RCの拡大発展となりました。この頃は、例会で歌うソングは全て英語のまま歌っていたそうです。そこで、日本語によるロー

タリーソング作成の要望が強くなってきました。1930年神戸の地区大会で奉天RCの提案による「日本語によるロータリーソングを作ること」が採択されました。

1935年京都で地区大会が開催され、募集した新作の「日本語によるロータリーソング」の発表が行われました。第1位「旅は道ずれ」、第2位「奉仕の理想」、3位「平和を人の世に植え」、第4位「我らの生業」。第1位に当選した作品は、作曲で1部に盗作があったので失格になり、「奉仕の理想」が第1位に繰り上げ当選となりました。

「奉仕の理想」の作詞者の前田和一郎(京都RC)氏は国際派の活動的なロータリアンでした。原詩は、「奉仕の理想に集いし友よ 世界に捧げん 我らの生業……」でした。当時のガバナーは国粹主義者な方で、愛国心が特に強く、選考に当たり歌詞の中で「世界に捧げん」を「御国に捧げん」と変えなければ、当選は無効という通達を出したのです。前田氏は、涙を吞んで変更を承認されましたが、逝去される際親しい友人を呼んで、「もし出来ることなら何時の日にか原詩の『世界に捧げん』に戻して頂ければありがたい」と言ったのが、遺言であったと言われております。

戦争中は「君が代」の斉唱が始まりました。1949年日本はR Iに復帰しますが、1951年にロータリーソングが募集され「手に手つないで」が作られました。これは1952年7月から、日本のロータリーが2つの地区に分かれる時に“これからも友情を確かめ合い、手に手つないでいこう”と誓い合った歌です。「それでこそロータリー」も古く、1953年に誕生しています。

日本で唄われる「我等の生業」は一業一人制のロータリアンがクラブを結成し、平和と親睦の目的に向かって、「クラブ奉仕」、「職業奉仕」、「社会奉仕」、「国際奉仕」の4大部門を通じて努力するという内容です。特に歌詞には職業奉仕の重要性が強く謳われています。「奉仕の理想」は大体同じ内容ですが、自己の職業奉仕を通じて世のため、人のためになるように、最終的には世界平和が永遠に続くことを願望している歌詞です。この2つは代表的ソングであり、リズムも多少スローテンポで厳肅さがにじみ、身の引き締まる感がするので、通常大会や協議会の開会時やクラブ例会の開会・閉会時によく合唱されます。

「手に手つないで」はロータリーの拡大と親睦を内容として歌われ、クラブの会員結束と世界平和に向かって努力しようというリズムカルで、歌いやすいソングです。「それでこそロータリー」は軽快なリズムにのったメロディーで1番の歌詞で会員同志の親睦を、2番では社会のため平和のため努力するという内容になっています。

因みにロータリーの公式の歌は、1999年11月R I理事会で、ベートーベン作曲のマーチ編曲 Egmont 序曲が決定されました。

その他、新しいソング集が2002年に作られたり、あるいはクラブ毎にロータリーソングを作っているRCもあるようです。当クラブでは、2004年度(西川会長年度)、2007年度(塚本会長年度)に第4例会に唱歌を歌っておりました。

点 鐘 20:00

西牧会長